

ステークホルダーの皆さまへ

早期の業績回復を実現し、持続的な成長への道を切り拓くとともに、
「モノ創りで輝き・存在感を発揮し続ける企業」を目指します。



代表取締役社長 社長執行役員
柳 弘之(左)

代表取締役 専務執行役員
木村 隆昭

「第41回東京モーターショー 2009」
に参考出品された電動二輪車「EC-f」

新たな船出

このたび、ヤマハ発動機株式会社は、2010年3月25日付で新たな経営体制へ移行しましたことをご報告いたします。代表取締役 社長執行役員に柳 弘之が就任し、代表取締役 専務執行役員 木村 隆昭とともにヤマハ発動機グループの経営の舵取りを行ってまいります。

ヤマハ発動機にとって2009年12月期は、世界的な金融危機が实体经济へと波及する中、欧米市場における急速な需要の冷え込みや為替の円高傾向定着などの影響を大きく受け、これまででない厳しい業績となりました。

こうした状況にあって、私たちが先頭に立ち、ステークホルダーの皆さまのご期待に応えるべく、グループの舵取りに全力で臨みます。

モノ創りで輝き・存在感を発揮

私たちの企業目的である「感動創造企業」とは、社会や環境との調和を図りながら、製品やサービスを通じて世界の人々に喜びや驚き、高揚感、豊さや幸福感をもたらすことを志向したものです。その実現のため、これまで以上に「モノ創りで輝き・存在感を発揮し続ける企業」でありたいと考えています。

モノ創りの原点はお客さまです。私たちは今一度、この原点に立ち戻り、製品の魅力・信頼性・価格、すなわちお客さまへの提供価値の最大・最良化に真摯に取り組んでまいります。そして、さらにお客さまの期待を超える価値を実現し、競争力を高めていくことが私たちの使命であり、ひいては企業価値の向上につながるものと信じています。そのために私たちは、現場主義・現物主義を貫いていきます。お客さまへの価値の提供は、現場・現物を通じてのみ実現できるものだからです。

ステークホルダーの皆さまへ

新中期経営計画

当面厳しい経営環境が予想されますが、昨年より進めております構造改革をさらに加速させ、収益体質の回復に努めるとともに、将来に向けた成長シナリオの実現に注力していきます。そのために、2010年度から3カ年の新たな中期経営計画を策定しました。新中期経営計画では、「モノ創りで輝き・存在感を発揮し続ける企業」を目指し、2010年度の連結営業利益黒字化と2012年度の連結営業利益率5%の達成に取り組みます。

挑戦と進化

経営陣ならびにグループ社員が一丸となり、新中期経営計画の実現に不退転の決意で取り組んでまいります。同時に、法令遵守や企業倫理の徹底、環境保全、社会貢献など、企業としての社会的責任も果たしてまいります。こうしたことを着実に遂行することにより、一刻も早く業績を回復させるとともに、ステークホルダーの皆さまからの信頼を深め、持続的な成長を図りたいと考えています。

こうした挑戦を通じて進化するヤマハ発動機グループにご期待いただきますとともに、より一層のご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2010年4月

柳 弘之

代表取締役社長 社長執行役員
柳 弘之

木村 隆昭

代表取締役 専務執行役員
木村 隆昭